

# 岡山県津山市 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ<sup>o</sup> 2021

## 地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、観光・・・自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型のワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは成長の機会になります。

## おススメのポイント！

- 現地調査の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で進める課題解決プログラムです
- 新たな観光客層の掘り起こしや滞在型観光のオリジナル施策を市や観光協会に直接提案します！
- 市長をはじめ地域住民の方々に、直接ヒアリングする貴重な機会があります！

## テーマ

### 津山市で農泊ビジネスの可能性を考える ～地域資源を生かした滞在型観光を企画せよ～

津山市が岡山県北部の中心都市と言われて久しいですが、人口減少が続き活気がなくなりつつあります。このような状況に対応すべく、市では観光を産業の柱の一つとして年間を通じて観光者が楽しめるような体験コンテンツの開発や観光誘客など、津山市の観光地化を精力的に進めています。

現在、市への観光者は観光施設や物産店、飲食店は回るものの、多くは日帰り観光、宿泊は市外を選択する状況であり、「滞在型」の観光者数が少ないことが大きな課題となっています。そこで、津山市では今年度から豊かな地域資源をもつ市ならではの「農泊※」推進に取り組み始めました。

本ワークショップでは、フィールドワークやヒアリングを通して市の魅力に触れ、長中短期を問わず津山に滞在し観光したくなるような企画、具体的には農村地域を拠点に、農業＋観光を体現する「農泊」推進のためのコンテンツ提案を期待します。

※農泊とは

農山漁村地域に宿泊し、滞在中に豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のことです。

地域資源を観光コンテンツとして活用し、インバウンドを含む国内外の観光客を農山漁村に呼び込み、地域の所得向上と地域活性化を図るものです。

## 津山市の魅力

岡山県北東部に位置し旧美作国誕生から1300年以上、地域の交通の要衝として、また、政治・経済・文化の中心地として栄えてきました。教育機関や医療機関が集積し都市機能を有する一方、郊外には山林や農地などの田園風景が広がります。宮大工の技術で組み上げた反りの発生しない家具・建具や金属加工技術による精密加工製品、縫製技術を活かした衣類・服飾雑貨、津山藩への献上品として続く和菓子や工芸品など、地域産材や技術を活かした高品質な製品やそれらを製造する魅力ある企業が多く存在しています。また、古くから牛馬の流通が盛んな土地として長い肉食文化をもち、「牛肉の聖地」とも称されています。



# 募集概要

募集期間	2021年12月6日(月)～12月20日(月) 17:00 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生(修士課程) (学部、専攻、学年問わず)
活動期間	2022年1月17日(月)～2022年3月17日(木)
応募条件	<b>全ての公式日程への参加が可能なこと</b>
募集人数	10名程度
応募方法 選考方法	<p>以下の手順もしくは右のQRコードのリンク先から申請してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① MyWASEDA にログイン。</li> <li>② 申請フォーム一覧から「地域連携ワークショップ 2021 春編」を検索。</li> <li>③ 「地域連携ワークショップ 2021 春編 応募フォーム」を選んで「申請」をクリック。</li> <li>④ 必要事項(志望理由 400 字程度)を入力して申請。</li> </ol> 
選考方法	<p>書類選考：結果通知は<b>2021年12月27日(月) 17:00までにWasedaメールにて通知</b>します。          ※面接選考(オンライン)を実施することがあります。その際は書類選考合格者に別途案内します。</p>
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。</li> <li>② フィールドワーク(現地調査)の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。主な活動地は早稲田キャンパス、津山市内となります。</li> <li>③ <b>新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては対面でのイベント(オリエンテーションやフィールドワーク等)がオンラインでの実施に切り替わる可能性があります。</b>その場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。</li> <li>④ <b>【重要】フィールドワークへの参加にあたっては出発前にPCR検査(東京都が実施するモニタリング検査)を受検し、結果を提出いただく必要があります。受検方法、スケジュール等は参加者にご案内します</b></li> <li>⑤ 参加にかかる費用(フィールドワーク期間中の交通費、宿泊費、食費、オンラインでの活動に必要な端末の購入費、通信費等)は参加者による実費負担です。              ただし、フィールドワークにかかる現地までの交通費および宿泊費は市より一部補助があります。              【交通費ご参考(片道)】※あくまで目安です              ・新幹線、在来線 17,790 円              【宿泊施設】              ・ウッディハウス加茂 6,000 円/泊(1部屋2名予定、朝食付き)</li> <li>⑥ 早稲田大学の学生補償制度(損害補償・賠償責任補償)に加入いただきますが、新型コロナウイルスは補償の対象外となります。</li> <li>⑦ 募集要項に記載されている日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、<u>期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。</u></li> <li>⑧ 当ワークショップは複数の地域(第2希望まで)に応募することができますが、最終的に参加できるのは1地域のみです。当地域を第1希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第2希望の地域のワークショップには参加できなくなります。</li> <li>⑨ <b>【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施されるプロフェッショナルズ・ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。</b></li> <li>⑩ ワークショップ実施日と重複する集中科目等を欠席した場合、<b>公欠扱いとはなりません。</b></li> <li>⑪ このプログラムは、グローバルエデュケーションセンター実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。</li> <li>⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。</li> </ol>
問合せ先	<p>教務部教育連携課 (<a href="mailto:rbso@list.waseda.jp">rbso@list.waseda.jp</a>)          ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部/研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。</p>

# ワークショップスケジュール

	予 定	日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田大学	2022年 1月17日(月) 14:00~16:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者・関係者顔合わせ</li> <li>・自治体担当者からの説明</li> <li>・課題および課題設定に至った背景の説明</li> <li>・今後のスケジュール確認</li> <li>・事前調査課題の説明</li> </ul>
②	事前調査期間	1月18日(火)～ 1月30日(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津山市について調査／情報収集を行いテーマに対する仮説を立てる</li> <li>・現地またはオンラインでのヒアリング先への質問内容を検討</li> <li>・<u>ヒアリング希望先の提出 1月30日(日)</u> (1月31日～2月14日：自治体調整期間)</li> <li>・必要に応じ、大学キャンパスにてグループワーク</li> </ul>
③	交流会 @早稲田大学	2月2日(水) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める</li> <li>・フィールドワーク前の注意事項確認</li> </ul>
④	フィールドワーク @津山市	2月15日(火)～ 2月18日(金) 【3泊4日】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内及び近隣市町村の観光施設などを訪問</li> <li>・市長はじめ、まちのキーマンの方々へのヒアリングを実施</li> </ul>
⑤	オンラインヒアリング @Zoom	2月21日(月)～ 2月25日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前調査やフィールドワークでの検討結果をふまえ、提案の検証に必要なヒアリングを行う</li> <li>※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となります(1日あたり3～5件)。</li> <li>左記の日程はスケジュールを空けておくようにしてください。</li> </ul>
⑥	中間報告会準備	2月26日(土)～ 2月28日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークやオンラインヒアリングをふまえた提案作成</li> </ul>
⑦	中間報告会 @早稲田大学	3月1日(火) 14:00~16:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案内容の報告</li> <li>・自治体担当者(@オンライン)、大学職員が参加予定</li> </ul>
⑧	最終報告会準備・ 追加調査期間	3月2日(水)～ 3月16日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告会でのフィードバック等をふまえた提案のブラッシュアップ</li> <li>・提案の再検証(必要に応じて追加のヒアリングを実施)</li> </ul>
⑨	最終報告会 @早稲田大学	3月17日(木) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市長など自治体関係者や地域住民の方々(@オンライン)に向けて提案を発表(約2時間)</li> <li>※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会(1時間程度)を実施するため、解散時刻は13:00頃となります。</li> </ul>

※上記以外の日程は、必要に応じて参加学生同士で相談し、自主的にオンラインやコロナ対策をとったうえで対面での会議等のスケジュールを決め、ワークショップを進めていきます(学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります)。

# 実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く  
↓
- 事前調査：  
個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。  
課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。  
どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかりスト化  
↓
- 現地調査・ヒアリング：  
自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）  
↓
- 最終提案資料作成：  
現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる  
↓
- 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション

学生同士で時間を決め、対面での  
打合せや Zoom 等で議論を進める

## 過去のワークショップ参加学生の声

※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

### ワークショップでの活動を振り返って

- 「学生だけじゃ何も変えられない」から「学生だから変えられる」という経験ができました。（社会科学部 1 年）
- インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかることがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）
- 活動を進めていく中で自分が得意としていることと苦手としていることもはっきりと判明しました。1 ヶ月半課題と向き合うことで、今後自分を成長させるための手がかりを得ることができたと感じています。（人間科学部 2 年）

### チームメンバーとの関わりを通して

- 元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさを体験できたので、今後活かしていきたいです。（教育学部 2 年）
- 意見を交わさなければ何も始まらないので否が応でも話さなければならない環境で、（中略）それぞれ全く異なる視点から物事を分析しているということがよくわかりました。（政治経済学部 2 年）
- あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さを学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

### 「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

- 自分が住む地域をよりよくするために、行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々それぞれ熱い思いをもって様々なことを考えていらっしやることがとても印象的でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）
- 「地域振興」は地元の人を中心にやるものというイメージから、外部の人でもできる、むしろ外部の人でなければできないこともあるというイメージに変わりました。（政治経済学部 2 年）